

# 九州大学 情報基盤センター

# 広報

学内共同利用版  
2007年 Vol. 6 No. 2-3合併号

## 目次

### 解 説

PowerPointファイルのHTMLファイルへの変換ツール『MakeHTML』 ..... 瀬河久美子・井上 仁	40
九大ポータル My.Kyushu-UとGoogle との連携 ..... 伊東栄典	51

### 報 告

平成18年度教育用システム統計 .....	57
人事異動 .....	58

編集後記 .....	59
------------	----

Computing and Communications Center  
**Kyushu University**

[www.cc.kyushu-u.ac.jp](http://www.cc.kyushu-u.ac.jp)

## 情報基盤センターサービス機器一覧

### ■教育用システム

ホスト計算機	ah.s.kyushu-u.ac.jp
WWWサーバ	www.cc.kyushu-u.ac.jp/ec/
ウェブメーラー(GraceMail)	https://secure.s.kyushu-u.ac.jp/

### ■KITE関連機器

教職員向けメールサーバ	mbox.nc.kyushu-u.ac.jp
-------------	------------------------

### ■リモートアクセスサービス

電話番号	制御手順	種別	通信速度	回線数
092-642-7341	PPP	モデム	最高56Kbps	64回線
		ISDN	同期64Kbps	92回線
		PHS (PIAFS)	32/64Kbps	32回線

# PowerPoint ファイルの HTML ファイルへの変換ツール「MakeHTML」

瀬河 久美子<sup>1</sup> 井上 仁<sup>2</sup>

## 1. はじめに

現在、九州大学ではコース管理システム WebCT を運用しており[1]，多くの授業で活用されている[2-10]。WebCT には，教材の作成と提示，シラバス，メールや掲示板等のコミュニケーションツール，オンラインテスト・アンケート，レポートの出題と回収，学生管理などの機能がある。

これらのコース管理システムの機能の中で一般に多く利用されるのは教材提示機能である。教員が作成する教材は PowerPoint や Word のファイルであることが多く，これらのファイルをそのまま，あるいは PDF や HTML 形式のファイルに変換して，個々のファイルを WebCT 上に配置するか，あるいは HTML 形式のいくつかのファイルをまとめて WebCT での利用に適した形式にして配置することになる。

本稿では，授業資料として一般に多く利用されている PowerPoint のファイルを，WebCT での利用に適した簡素な HTML 形式のファイルに変換するツール「MakeHtml」を紹介する。

## 2. WebCT での教材提示

教員(コースデザイナー)は次の三つの方法で WebCT 上に教材を配置することができる。

### ① シングルページ

HTML ファイル，PDF ファイル，Word ファイル，PowerPoint ファイル，画像ファイル等のあらゆる形式のファイルを一つのファイルとして WebCT に配置する。利用者は WebCT 上のアイコンをクリックすることによって，当該ファイルを開くことになる。

### ② リンク

既に他の Web 上で公開されている教材へのリンクを WebCT に配置する。利用者は WebCT 上のアイコンをクリックすることによって，リンク先のページを開くことになる。

### ③ コンテンツモジュール

複数の HTML ファイルや画像ファイル等 (コンテンツページ) を一つのモジュールとして構成したもので，章立てや階層構造を持たせることができる。利用者は WebCT 上のアイコンをクリックすることにより，コンテンツモジュールの目次あるいは最初のページを開く。各ページの移動には，WebCT のナビゲーションを利用する。

これらのどの方法を利用するかは，教材作成の容易性，WebCT の他の機能との連携，学習者の閲覧状況の把握をすることがどうか等に依存する(具体的な利用方法は[11]を参照)。

既存のファイルを WebCT の教材として手軽に作成したい場合には，①のシングルページとして

<sup>1</sup> 九州大学情報基盤センター segawa@cc.kyushu-u.ac.jp

<sup>2</sup> 九州大学情報基盤センター jin@cc.kyushu-u.ac.jp

配置するのが簡単である。すでに Web ページとして教材を提供している場合には、②のリンク機能を利用することにより、WebCT をポータル的に使用することができる。一方、関連するオンラインテストの実施、用語集の利用、コミュニケーションツールの利用等、授業資料と他の WebCT の機能を有機的に連携する場合には、③のコンテンツモジュールとして教材を作成する必要がある。WebCT には学生の教材の閲覧状況を記録する機能があり、その情報を元にきめ細かな学習指導が可能であるが、③のコンテンツモジュールに対してのみ情報が記録される。

これらの特徴から、WebCT で教育効果の高い教材を提供するためには、③のコンテンツモジュールとして配置することが望ましいと考えられる。

コンテンツモジュールとして配置できるファイル形式に特に制限はないが、特に HTML ファイルとの親和性が高い。一つの HTML ファイルがコンテンツモジュールの 1 ページに相当し、コンテンツモジュールの目次に設定されたリンクをクリックすることにより各ページに簡単に移動することが可能である。HTML ファイル中の title タグが適切に設定されていると、コンテンツモジュールの各ページとして配置する際に、title タグ内に記述されている文字列が自動的に目次情報として利用される。

### 3. 「MakeHTML」とは

教員が持つ授業資料は HTML よりも PowerPoint で作成されたものが多い。そのため、PowerPoint のファイルをコンテンツモジュールとして簡単に配置したいという要望が多い。PowerPoint で作成したファイルを HTML ファイルに変換するには、PowerPoint の標準機能として提供されている『「ファイル」メニューの「Web ページとして保存」を選択する』という方法が利用できる。しかしこの方法で生成された HTML ファイルには、各スライドの移動のためのナビゲーションが標準で含まれているため WebCT 自体がもつナビゲーションと重複してしまい、WebCT のコンテンツモジュールとしてそのまま利用するには適さない。

PowerPoint のファイルをコンテンツモジュールとして利用する場合、各スライドを画像ファイルとして出力し、コンテンツモジュールの各ページとして配置する方法もある。この場合、静止画自体には目次情報となる文字列を付与することができないため、コンテンツモジュールの目次情報は、教員(コースデザイナー)が WebCT 上で再度手入力する必要がある。

そこで、PowerPoint ファイルを HTML ファイルと画像ファイルに変換し、同時にスライドのタイトルを title タグに自動設定を行う変換ツール「MakeHTML」を作成した。「MakeHTML」は PowerPoint のアドインとして提供されているので、Windows OS と Mac OS の PowerPoint で利用可能である。

### 4. 「MakeHTML」の入手

以下の URL にアクセスすると、図 1 に示す「WebCT ツール群」という WWW ページを表示する。

<http://webct.kyushu-u.ac.jp/misc/tools/>

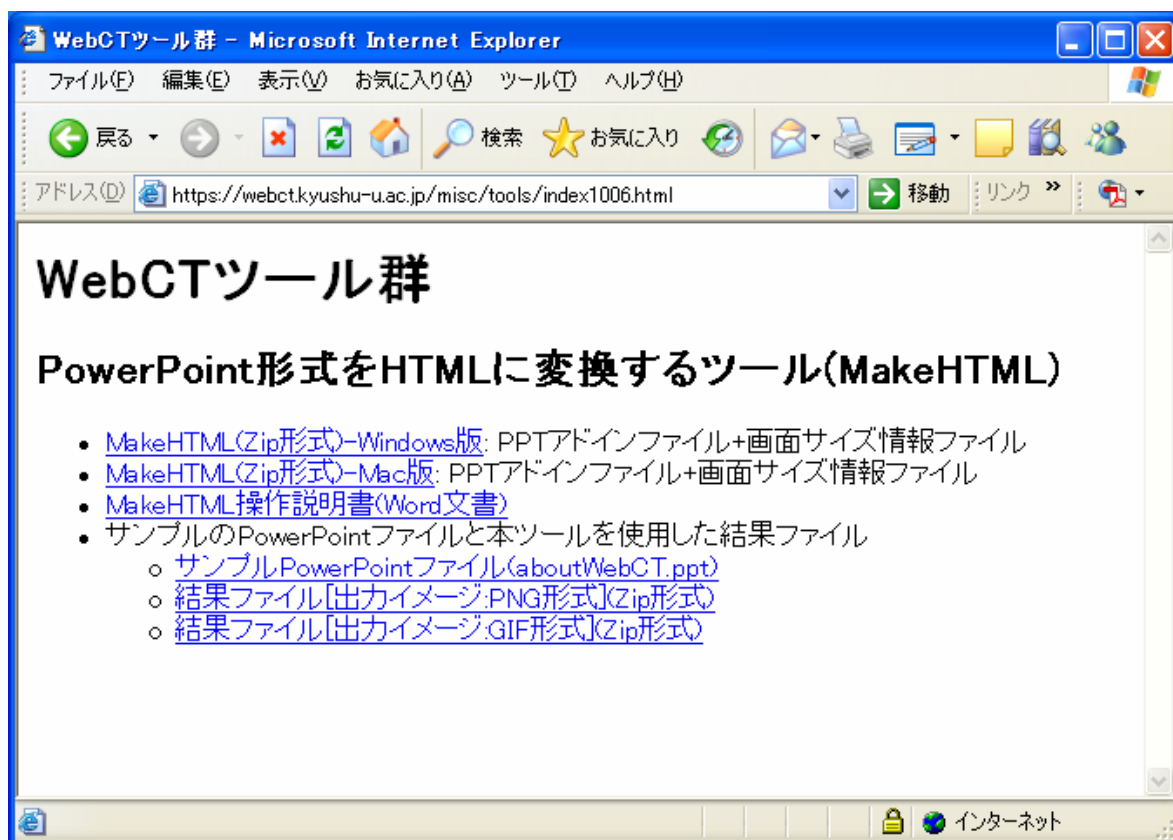


図 1: WebCT ツール群

本ツールの本体である「MakeHTML(Zip形式)-Windows版」「MakeHTML(Zip形式)-Mac版」、本ツールの説明書、およびサンプルのPowerPointと本ツールを使用した結果ファイルをダウンロードすることができる。ユーザーの使用OSに依り、「MakeHTML(Zip形式)-Windows版」、「MakeHTML(Zip形式)-Mac版」のいずれかをダウンロードする(Unix版の本ツールはあいにくありません)。ダウンロードしたファイルを展開すると、次の二つのファイルを含むMakeHTMLというフォルダが生成される。

- ① MakeHTML.ppa (PowerPoint アドインファイル)
- ② info.txt (アドインに必要な設定情報保存ファイル)

MakeHTMLをインストールし利用するためには、これら二つのファイルを適当な場所に配置しておく。なお、これらのファイルは同じフォルダに存在しなければならない。

確認した動作環境は、次の通りである。

- OS : Windows XP および MacOS X10.2.8 以降
- アプリケーション : Microsoft Office PowerPoint 2003

## 5. インストール

本節では、本ツールのインストール方法について述べる。本ツールは PowerPoint のアドインとして提供されるため、PowerPoint の「マクロ」を有効にする必要がある。

### 5.1 セキュリティの設定

- A) 「ツール」 - 「マクロ」 - 「セキュリティ」メニューを選択する。

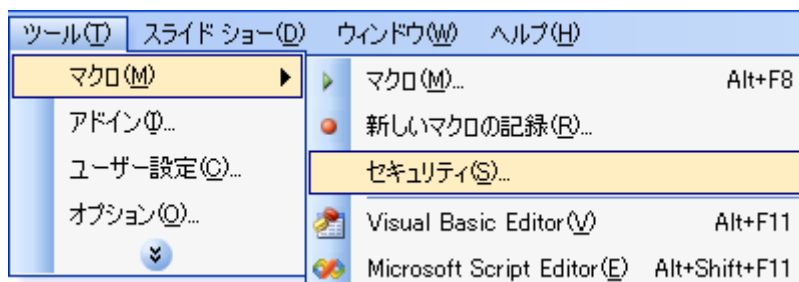


図 2: セキュリティメニューの選択

- B) 「セキュリティ」ダイアログが開く。設定を「中」にする。

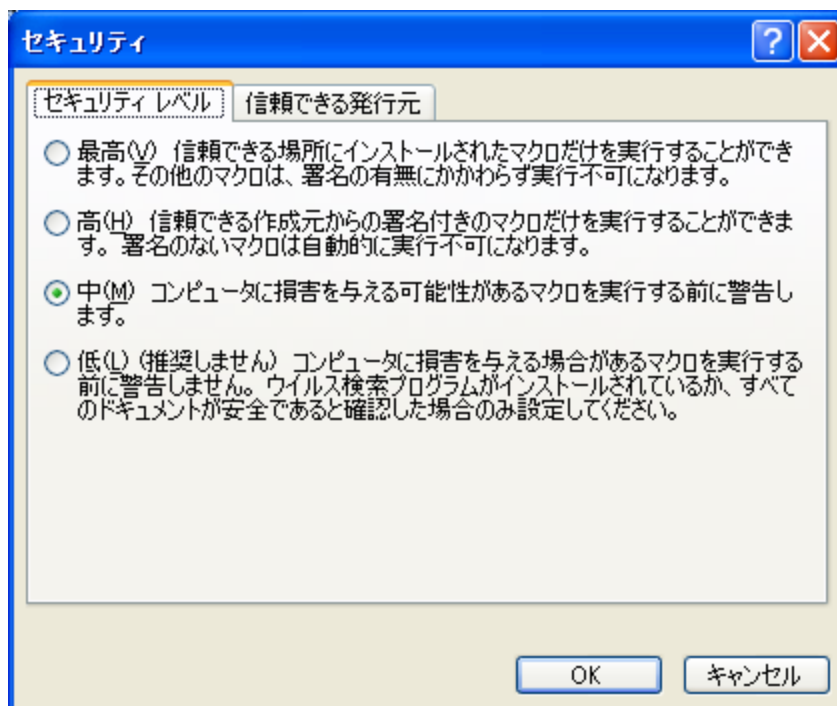


図 3: 「セキュリティ」ダイアログ

### 5.2 アドインの登録

- A) PowerPoint から「ツール」 - 「アドイン」メニューを選択する。

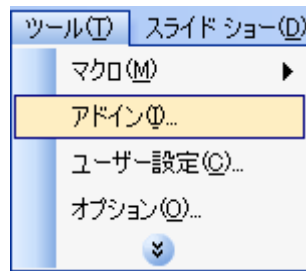


図 4: アドインメニューの選択

B) 「アドイン」ダイアログが開く。

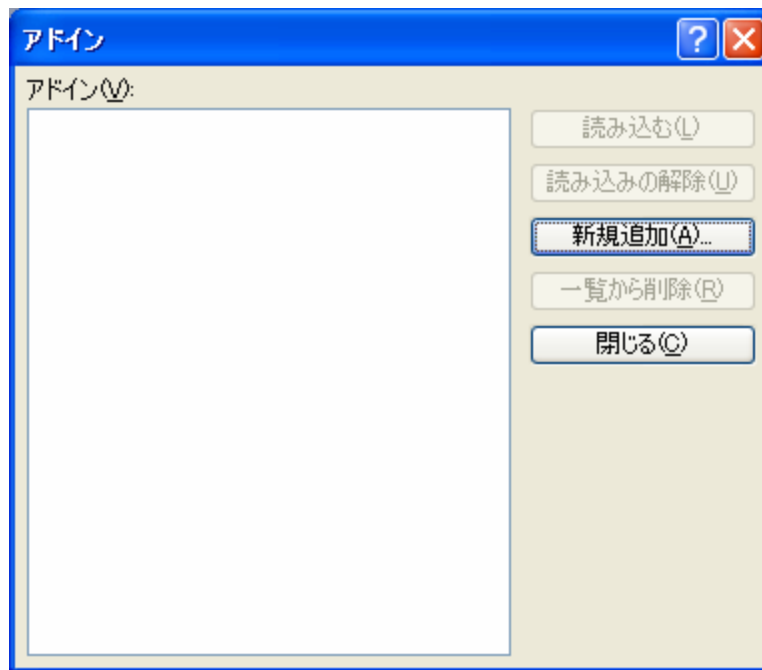


図 5: 「アドイン」ダイアログ

「新規追加(A)...」ボタンをクリックすると、「新しい PowerPoint アドインの追加」ダイアログが開く。先に保存しておいた MakeHTML.ppa ファイルを指定し、「OK」ボタンをクリックする。

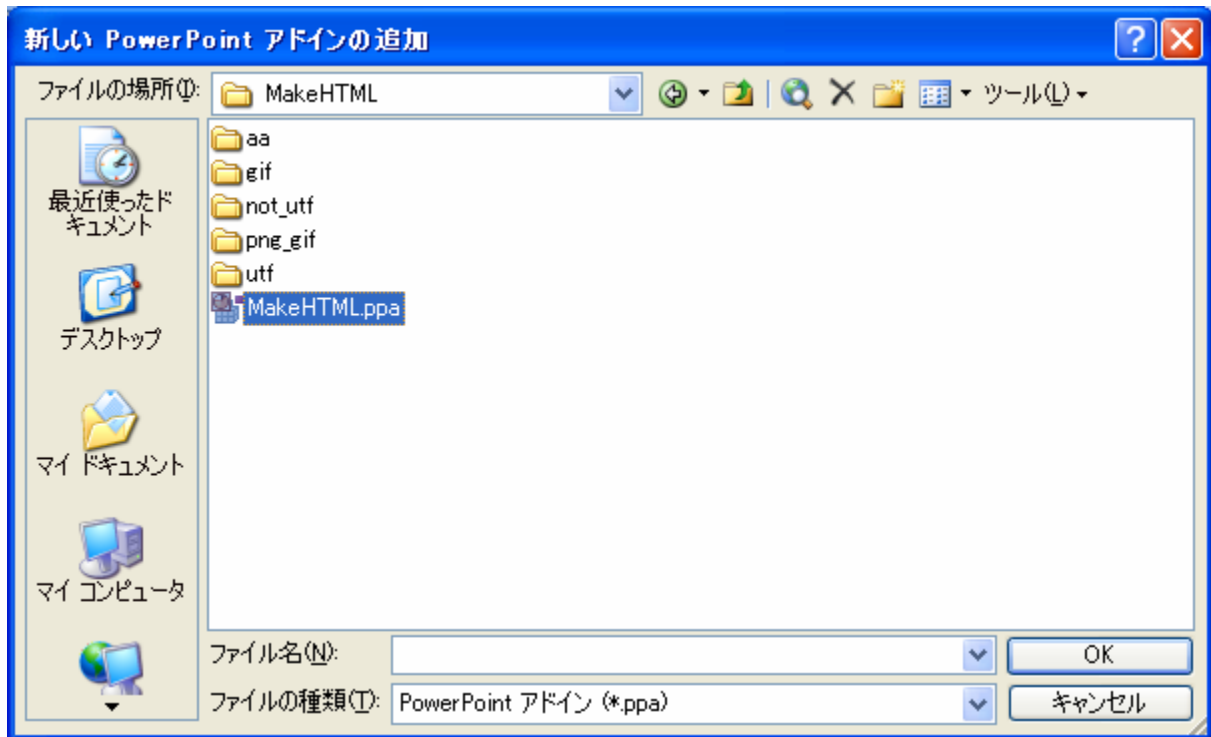


図 6: 「新しい PowerPoint アドインの追加」 ダイアログ

次のような「セキュリティ警告」ダイアログが表示される場合がある。この場合は、「マクロを有効にする(E)」ボタンをクリックする。

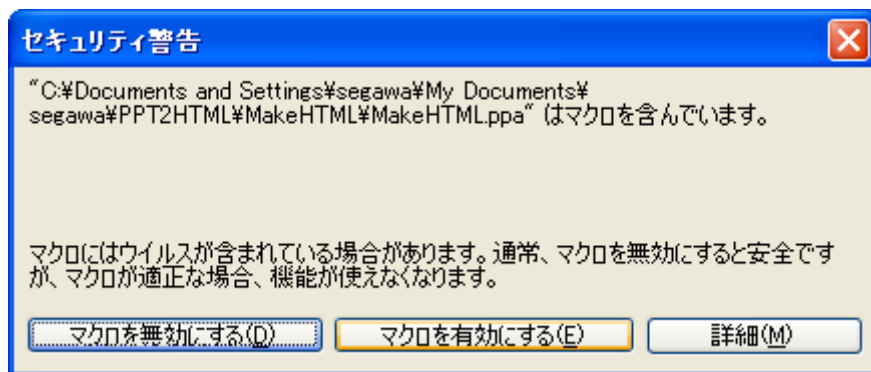


図 7: 「セキュリティ警告」ダイアログ

これによりリスト中に「MakeHTML」という選択肢が現れる。チェック印をつけたまま、「閉じる」ボタンをクリックする。



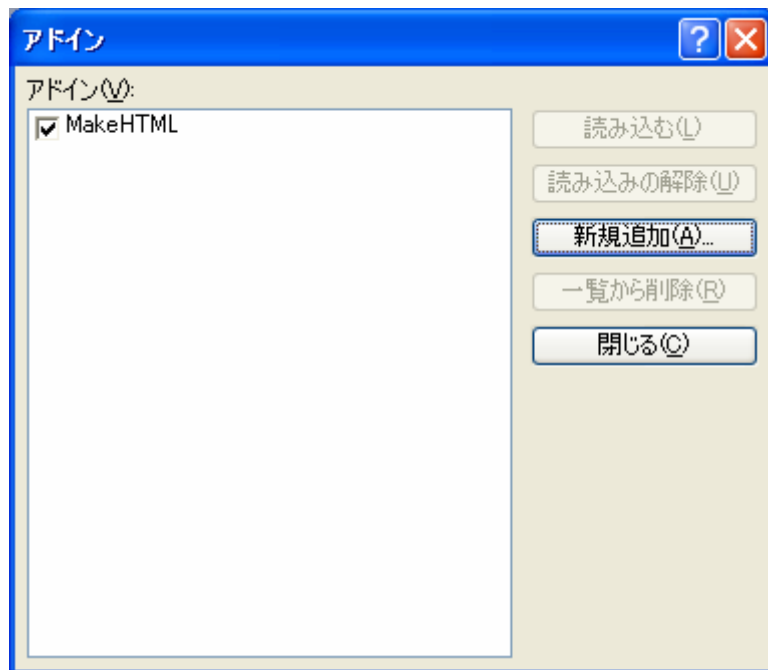


図 8: MakeHTML アドインが登録された「アドイン」ダイアログ

### 5.3 「HTML ファイル作成」メニューの確認

「ツール」メニューに「HTML ファイル作成」というメニュー項目が追加されていることを確認する。

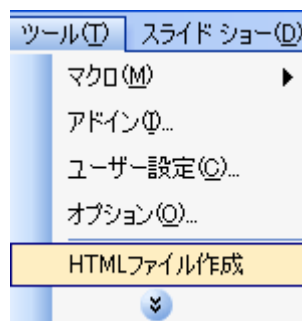


図 9: 「HTML ファイル作成」メニュー

## 6. 使用方法

A) PowerPoint プレゼンテーションを開く。

「セキュリティ警告」ダイアログが表示されるため、「マクロを有効にする」ボタンをクリックする。

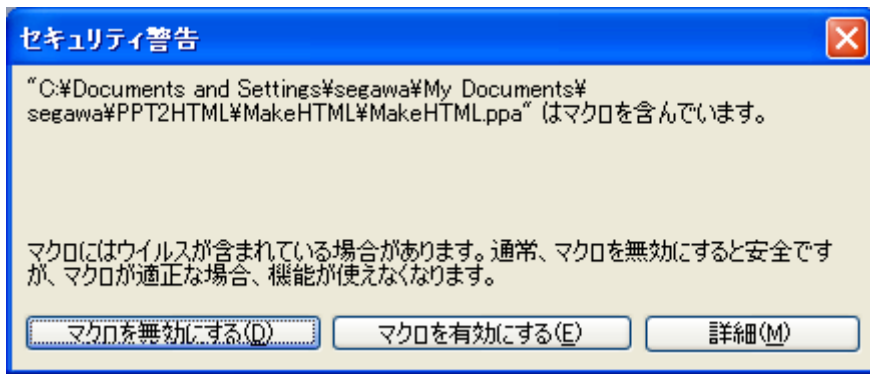


図 10: 「セキュリティ警告」ダイアログ

B) 「ツール」 - 「HTML ファイル作成」メニューを選択する。

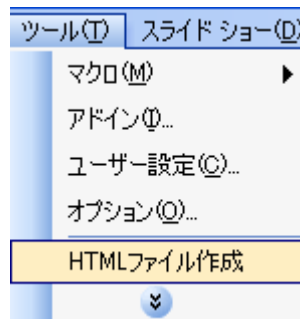


図 11: 「HTML ファイル作成」メニュー

「PowerPoint から HTML へ変換」ダイアログが開く。




図 12: 「PowerPoint から HTML へ変換」ダイアログ

●保存先フォルダ名：出力ファイルを置くフォルダ名である。ここに指定したフォルダの下に、

自動的に現在アクティブ状態にある PowerPoint ファイル名のフォルダを作成する。

例) 保存先フォルダ名が “C:\¥tmp¥segawa¥PPT” で、現在アクティブな PowerPoint ファイルが “テスト.ppt” とすると、HTML ファイルやイメージファイルが出力されるフォルダは “C:\¥tmp¥segawa¥PPT¥テスト” となる。

「参照」 ボタンをクリックすると、「参照」ダイアログが開く。  
既存のフォルダを選択もしくは新規作成  をクリックし、保存先フォルダを決定する。  
(Mac 版には、「参照」 ボタンは表示されない。従って、保存先フォルダは、現在開いている PowerPoint ファイルの存在するフォルダとなる。別のフォルダを指定する場合は、必ず既存のフォルダを指定すること。)

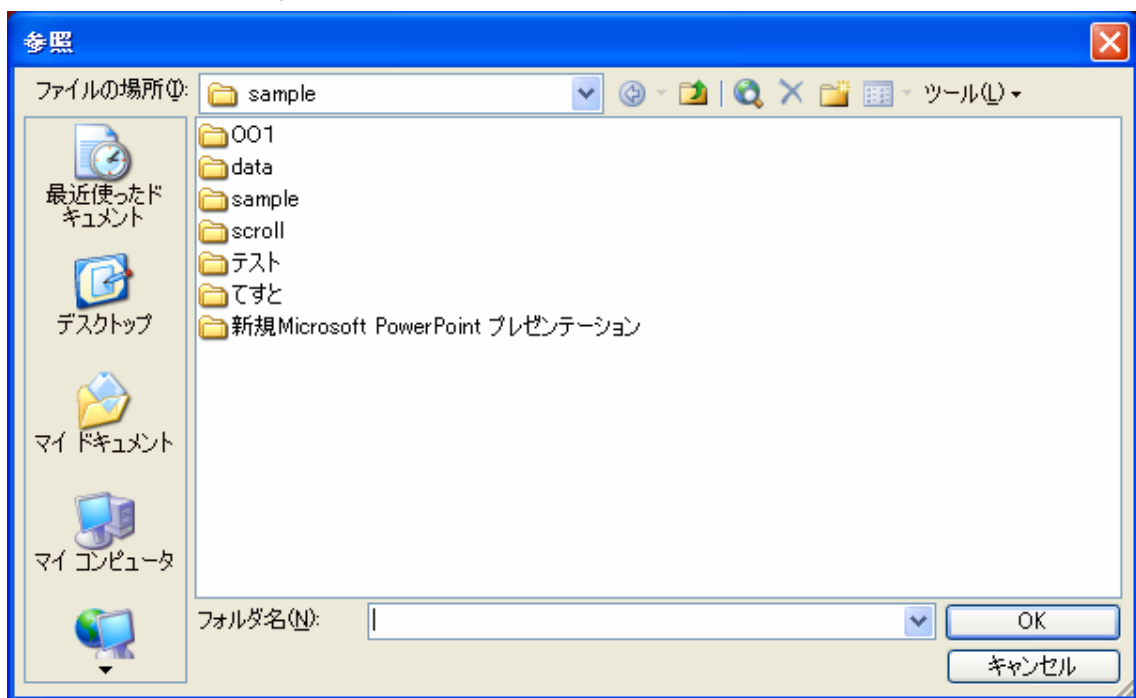


図 13: 「参照」ダイアログ

- **イメージサイズ** : 出力するイメージファイルのサイズ (ピクセル単位) を指定する。
- **出力イメージ** : 出力するイメージファイルのタイプとして GIF 形式もしくは PNG 形式のどちらかを選択する。
- **「作成」ボタン** : 設定した情報で、HTML ファイルおよびイメージファイルを作成する。  
“指定した保存先フォルダ名” + “PowerPoint ファイル名 (.ppt は付与せず)” の下にスライドの数だけ次のファイルが作成される。
  - i. HTML ファイル : ppt001.html, ppt002.html...スライド数分
  - ii. PNG 形式ファイル : slide001.png, slide002.png...スライド数分 (出力イメージに PNG 形式を指定した場合)
  - iii. GIF 形式ファイル : slide001.gif, slide002.gif...スライド数分 (出力イメージに GIF

形式を指定した場合)

注1) 作成される HTML ファイルの文字コードは“UTF-8”となる。

注2) 1 PowerPoint 中のスライド数は最大 999 である。

HTML ファイルの作成が終了すると、次のメッセージダイアログを開くので、「OK」ボタンをクリックする。

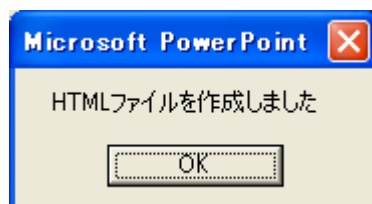


図 14: 「HTML ファイル作成終了」メッセージダイアログ

- 「終了」ボタン: 「PowerPoint から HTML へ変換」ダイアログを閉じる。

## 7. まとめ

本ツールは、PowerPoint のアニメーションを動画のまま変換する機能を持ち合わせていない。このため、アニメーションが存在するスライドは他のツールを使用して動画に変換しているのが現状である。今後、アニメーションが存在するスライドも動画に変換できるように改良していきたい。

最後に、本ツールを使用することにより、WebCT における教材作成の作業の効率化が図れれば幸いである。

## 参考文献

- [1] 井上仁, 多川孝央, 「e ラーニングシステム -WebCT- の紹介」, 九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.2, No.2, pp.119-130, 2002.
- [2] 井上仁, 特集「e ラーニングシステム WebCT -導入と利用の展開-」, 九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.3, No.2, pp.43-44, 2003.
- [3] 平野裕子, 「看護学生に対する WebCT 「社会福祉コース」の構築とその課題」, 九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.3, No.2, pp.45-55, 2003.
- [4] 岡崎智己, 「WebCT と日本語教育」, 九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.3, No.2, pp.56-62, 2003.
- [5] 多田内修, 「農学教育における WebCT の利用」, 九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.3, No.2, pp.63-69, 2003.
- [6] 大喜雅文, 「医学部保健学科における e-Learning の取り組み」, 九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.3, No.2, pp.70-77, 2003.
- [7] 井上仁, 「コース管理システム「WebCT」の組織的利用」, 九州大学情報基盤センター広報 学

内共同利用版, Vol.5, No.2, pp.53-54, 2005.

- [8] 吉田素文, 井上仁, 「WBT による医療系統合教育」, 九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.5, No.2, pp.55-60, 2005.
- [9] 有働公一, 「歯学研究院における WebCT を利用した電子シラバスと講義コースの構築」,九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.5, No.2, pp.61-66, 2005.
- [10] 国際交流部, 「国際交流専門委員会における WebCT の利用について」,九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版, Vol.5, No.2, pp.67-71, 2005.
- [11] 多川孝央: 「既存文書ファイルを利用した WebCT 教材作成手順」九州大学情報基盤センター広報 学内共同利用版 Vol.3 ,No.2, pp.78-97, 2003.

# 九大ポータル My.Kyushu-U と Google との連携

伊東 栄典<sup>1</sup>

本稿では、情報基盤センター（以下、当センターと表記）で試作している九大ポータル「My.Kyushu-U [1, 2]」の提供する部局サイトのお知らせ RSS と、検索エンジン Google との連携について紹介します。RSS と Google のパーソナライズ機能をご存知の場合、下記の表で示す「部局サイトの RSS 一覧」で提供される各部局サイトの RSS を利用することで、学内情報資源が活用可能です。RSS は RDF Site Summary の略で、サイト概要記述の形式です。

My.Kyushu-U	<a href="http://my.kyushu-u.ac.jp/">http://my.kyushu-u.ac.jp/</a>	図 1 左
部局サイトの RSS 一覧	<a href="http://my.kyushu-u.ac.jp/rss/">http://my.kyushu-u.ac.jp/rss/</a>	図 1 右

また、ご意見などがございましたら、下記宛先までメールをお送りください。

コメント送付先	<a href="mailto:qportal@cypher.cc.kyushu-u.ac.jp">qportal@cypher.cc.kyushu-u.ac.jp</a>
---------	--



図 1 My.Kyushu-U

## 1. はじめに

Web 上に様々な情報サイトが乱立するにつれ、サイトの更新を知ることが困難になっています。九州大学のような総合大学では、学部・学府・施設・サークルなどが Web サイトを作成・公開しています。九州大学の公式 Web サイトで提供されている、学部・大学院・研究所等の一覧（<http://www.kyushu-u.ac.jp/profile/faculty.html>）には、学内にある様々な部局やセンター等が提示されており、2007年2月12日現在では91個のリンクが存在しています。

近年、複数サイトの閲覧を助けるために、お知らせやニュース記事などの見出し（ヘッドライン）の RSS 形式での提供が行われるようになりました。新聞や情報提供サイトでは、RSS で記

<sup>1</sup> 九州大学情報基盤センター研究部 itou@cc.kyushu-u.ac.jp

事のヘッドラインを提供することが普通になっています。

本センターが提供する My.Kyushu-U では、学内のお知らせを自動的に切り出し、RSS 形式で更新・保存しています[1]。この自動的に生成された RSS データは、部局サイトの RSS 一覧サイト( <http://my.kyushu-u.ac.jp/rss/> )から利用可能です[1,2]。以前の広報記事[1]でも示したように、RSS リーダなどから上記の RSS の利用が可能です。

本稿では、My.Kyushu-U が提供する RSS ファイルについて、検索エンジン Google での利用を例として、活用法を紹介します。なお、本稿では、Windows XP 上で動作する Internet Explorer 7 を例に操作を説明しています。FireFox や Opera など他の Web ブラウザでも同等の操作が可能です。

## 2. Google パersonalized ホーム

検索エンジン Google では、個人に特化するサービスを開始しています。この個人向けに内容を特化したサービスは、「パーソナライズドホーム」(personalized home)と呼ばれています。図 2 の右に、パーソナライズドホームを示します。



図 2 Google パersonalized ホーム

このパーソナライズドホームは、利用者により設定変更が可能です。図 2 右の[パーソナライズはこちらで]のリンクをクリックすると、図 3 のような画面になります。

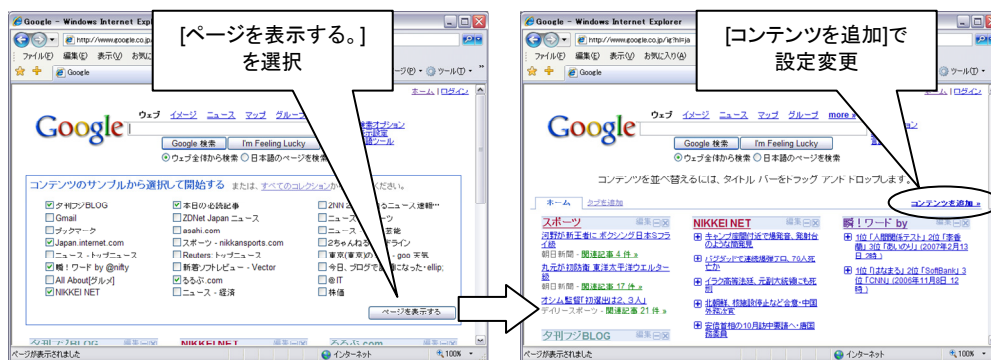


図 3 コンテンツの追加

図 3 左側の画面でコンテンツの指定が可能です。利用者が閲覧したいサイトを指定すると、そ

のサイトが提供する記事の見出しを表示できます。表示コンテンツは、後から追加や削除などの変更が可能です。図 4 にコンテンツを追加する際の様子を示します。



図 4 コンテンツの追加

Google が用意したコンテンツ以外に、URL を指定することでの RSS コンテンツを追加可能です。図 5 左の画面で右上にある「URL を指定して追加」をクリックします。すると、図 5 右側の画面になります。この画面で、中央の欄に URL を入力すると、コンテンツの追加ができます。

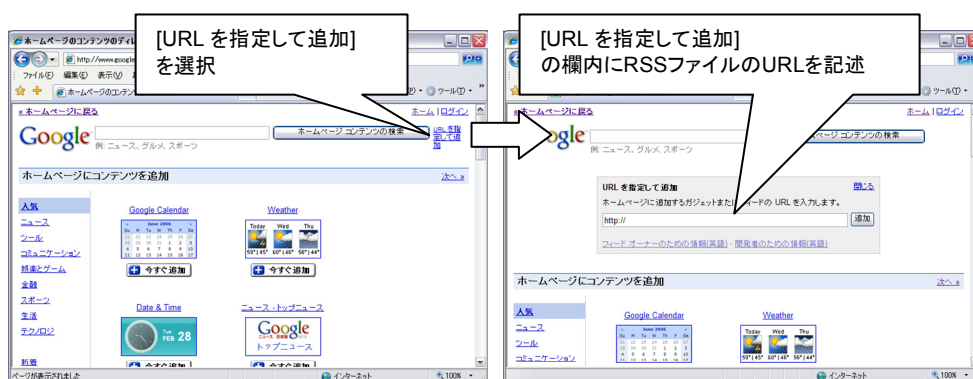


図 5 コンテンツを指定して追加

以上の説明では、Google にログインしない状況で利用する場合で記述しています。この場合、設定内容は閲覧内容を一時的に保存する Cookie と呼ばれる機能を使ってブラウザ内に保存されています。そのため、一台の計算機で、かつ同一ブラウザのみを利用する場合は、以前設定した内容が次回にも反映されます。また Cookie を削除することで、設定内容を削除することが可能です。なお、設定内容の長期的な保存や、複数の計算機間での共有には、Google へのログインが必要になります。

### 3. My.Kyushu-U が提供する RSS の Google への追加

ここでは、My.Kyushu-U が提供する RSS を Google に追加する方法について述べます。まず、図 6 に示す、My.Kyushu-U が提供する各部局の RSS 集ページを表示します。RSS 集ページの URL は「<http://my.kyushu-u.ac.jp/rss/>」です。



RSS 一覧ページから、常時閲覧したいサイトを選びます。例として、九州大学のトップページを常時閲覧するものとします。九州大学トップページは RSS 一覧ページ (図 6) では左上の一番目に掲載されています。図 6 の右側で示すように、九州大学トップページの RSS へのリンクがアイコンとして存在しています。このアイコンが指すリンク先 URL が RSS ファイルの存在する場所になります。例えば、九州大学トップページからお知らせ部分を自動抽出して作成した RSS の URL は「<http://my.kyushu-u.ac.jp/rss/rss/www.rss>」です。

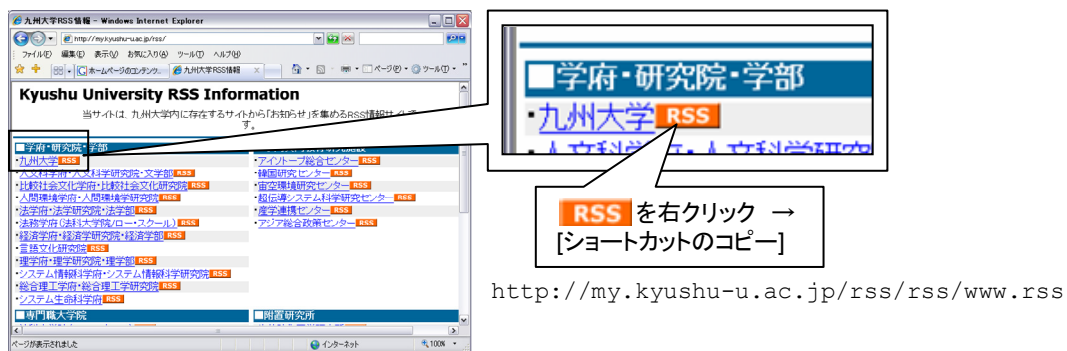


図 6 RSS 一覧と URL の取得

図 6 の操作で取得した RSS への URL を、Google パーソナライズページへ貼り付けます。貼り付け操作の例を図 7 に示します。

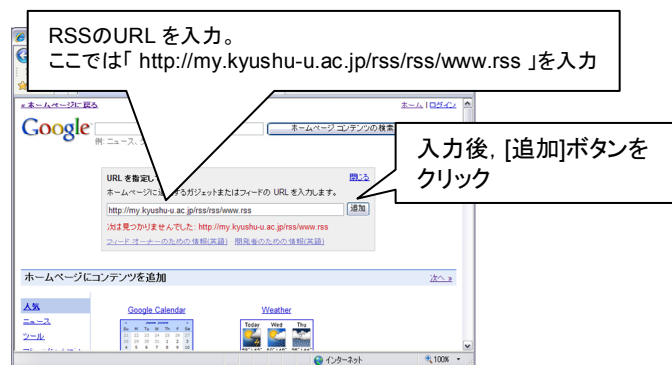


図 7 RSS がある URL の指定

以上の操作で、My.Kyushu-U が提供する九州大学トップページの RSS を、Google パーソナライズドホームに設定することができました。図 8 の右側に、九州大学トップページの RSS を貼り付けた、Google パーソナライズドホームの画面を示します。図 8 の左側には多くの学内サイトを貼り付けたページを表示しています。



図 8 九州大学内の RSS を貼り付けた Google パーソナライズドホーム

#### 4. 今後の課題

現状では、Google パーソナライズドホームに、My.Kyushu-U が提供する学内サイトの RSS を貼り付けると、お知らせの掲示順が元のサイトでの掲示順と異なります。現在の My.Kyushu-U では、各サイトの HTML から機械的にお知らせ抽出と RSS 形式への変換を行っています。各サイトでは、サイト毎に独自の様式でお知らせを提示しているため、各お知らせ項目の発行時間を正確に取得することができません。そのため変換後の RSS でも、お知らせの発行時刻を記述しておらず、従って Google パーソナライズドホームでもお知らせが発行時刻順に表示されません。発行時刻は重要な情報ですので、お知らせの発行時刻を取得できるよう、My.Kyushu-U の機能を充実させていく予定です。

また、閲覧制限の問題もあります。RSS ではお知らせの見出しのみが提示されているため、学外からの閲覧も許しています。しかし、お知らせの内容が学外からも閲覧可能かは各サイト管理者の設定に依存します。そのため学外のネットワークに接続している場合、見出しには提示されているものの、内容は閲覧できないお知らせが存在する可能性があります。

時刻と閲覧制限の問題は、お知らせ情報の提供元と、見出し RSS の提供元が異なるために発生しています。現在のように My.Kyushu-U 側で RSS を自動作成するのではなく、各サイト側で RSS が提供されるようになれば、発行時刻の問題も閲覧制限の問題もなくなります。今後どの部局サイトでも、お知らせの掲示とともに RSS を提供される事を期待します。

#### 5. おわりに

本稿では、当センターで試作している九大ポータル「My.Kyushu-U」の提供する部局サイトのお知らせ RSS と、検索エンジン Google との連携について紹介しました。Web 検索は社会の重要な情報インフラに成長しています。情報提供と検索を組み合わせることで、新たな機能の実現が可能であると思います。

米国では行政サイトの統合検索に Google を援用しています (http://www.google.com/ig/usgov)。そのサイトを図 9 に示し

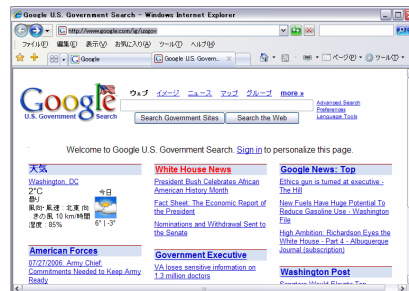


図 9 Google U.S. Government Search

ます。同様のことを学内でも実現できると考え、本稿の内容を紹介しました。

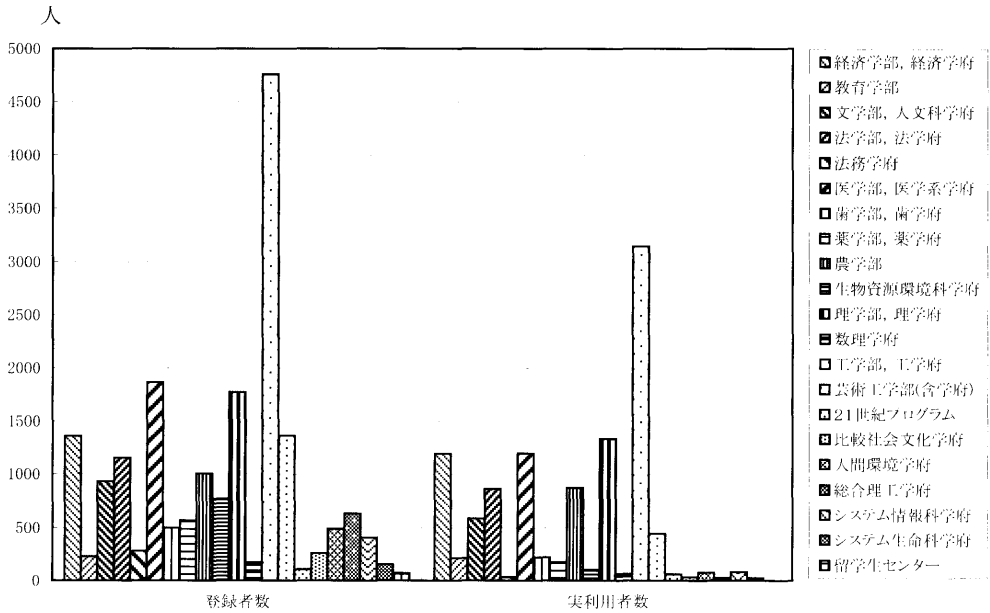
また、近年では、複数の Web 情報サービスを連携して新たなサービスを構築する Mashup が盛んになりつつあります。学内の情報サービスも連携することで、新たなサービス提供が可能になるのではないかと期待しています。

#### 参考文献

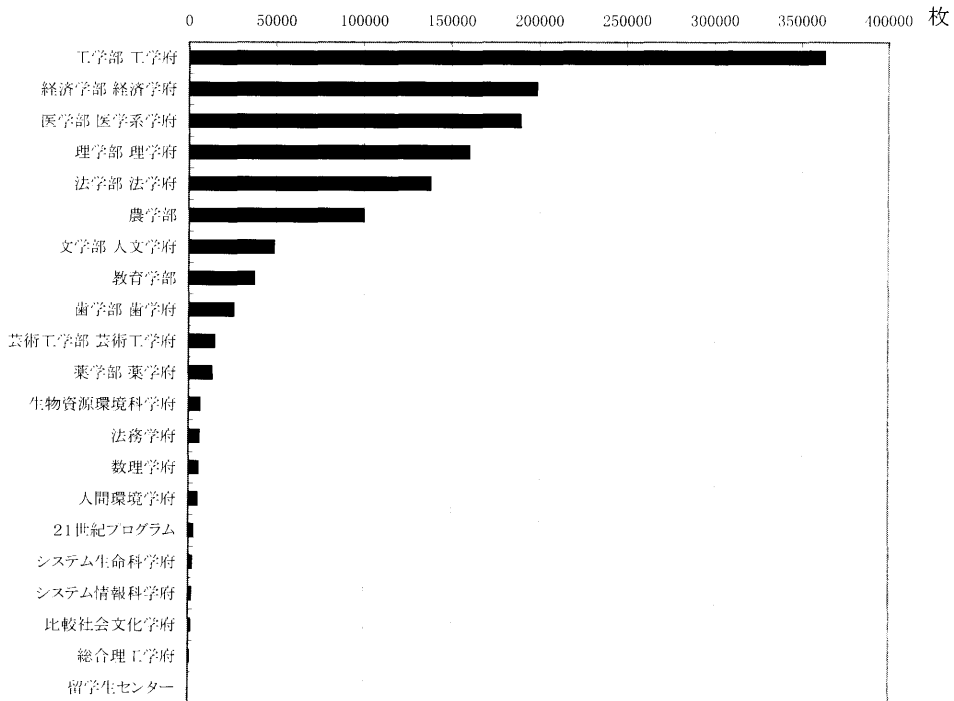
- [1] 伊東栄典, 池田嗣穂, 亀岡謙一, 高木早智子: “九大ポータル My.Kyushu-U の試作”, 九州大学情報基盤センター「広報 学内共同利用版」, Vol.6, No.1, pp.1--6, 2006.
- [2] 池田嗣穂, 亀岡謙一, 伊東栄典: “RSS を利用した九大ポータルサイトの構築”, 第 28 回 全国共同利用情報基盤センター・連合発表会 研究開発論文集 (ISSN: 0910-8769), pp.95--100, Nov., 2006.

## 平成18年度教育用システム統計

### 1. 学部等別登録者数および実利用者数(平成18年4月～平成19年2月)



### 2. 学部・学府別のプリンタ出力状況(平成18年4月～平成19年2月)



## 人 事 異 動

## ◎転出・退職者等

発令年月日	異動後の職名等	氏 名	異動区分	異動前の職名等
18. 6.30	ユーザーサイエンス機構 技術補佐員(パートタイム)	原 由加里	退 職	研究部技術補佐員
18. 9.30		黒木 ささら	退 職	ネットワーク運用係事務補佐員
18.10.31		渡辺 朋美	退 職	会計係事務補佐員
18.12.28		上田 梓	退 職	会計係事務補佐員
19. 1.31		鈴木 優子	退 職	会計係事務補佐員
19. 1.31		大森 洋子	退 職	研究部技術補佐員(研究支援推進員)

## ◎転入等

発令年月日	異動後の職名等	氏 名	異動区分	異動前の職名等
18. 9. 1	研究部技術補佐員(パートタイム)	熊井 洋平	採 用	
18.10. 1	研究部学術研究員	江島 賢司	採 用	
"	ネットワーク運用係事務補佐員 (パートタイム)	矢島 智子	採 用	
18.11. 1	会計係事務補佐員(パートタイム)	宮島 直子	採 用	
"	研究部事務補佐員(パートタイム)	垣岡 佳苗	採 用	
18.12. 1	研究部技術補佐員(パートタイム)	梅田 町子	採 用	
"	研究部技術補佐員(パートタイム)	松山 孝司	採 用	
19. 1. 1	会計係事務補佐員(パートタイム)	鈴木 優子	採 用	
19. 2. 1	研究部技術補佐員(研究支援推進員)	若松 恵一郎	採 用	

## 編集後記

日差しも暖かくなり、だんだん春が近くなってきました。広報が発行される頃は、桜も咲き始める時期で、卒業式や入学式などあわただしい時期になっていることと思います。毎年新入生が来る頃になると、情報技術の普及を感じます。キャンパスではほとんどの人がケータイを持ち歩いていますし、センターや図書館でも PC を使って様々な情報を得ている学生さんの姿を見かけます。新入生の IT スキルの向上は、高校での授業の成果でもあるのでしょう。情報技術はすっかり社会基盤の一部になっていると思う今日この頃です。

その恩恵を我が家でも受けております。私事ですが、昨年に子供が生まれ、現在育児に追われる日々が続いています。子供の世話等で家を空けられない時に、ネット通販が大変役立っています。最近では多く商品がネット経由で購入でき、育児用品も例外ではありません。乳幼児衣料から紙おむつなどの育児用品購入に本当に助かっています。またスーパーに行く時間を空けることが難しい場合もあり、そんな時は生鮮食料品の通販サイトのお陰で助かっています。ICT のお蔭でつくづく便利になったと感じる E.I でした。

( E. I. )

そう言えば、周囲で妊娠・出産の話題が増えた気がする、というのはさすがに気のせいだろうが、日本国内の出生率が 4 年ぶりに 1.3 を超えそうらしい。それでも、しばらくは人口の減少傾向は続きそうで、それはまあ、そもそも個体数が必ず右肩上がりになる、なんていうことは有り得なくて、丁度いい数に落ち着くための振動の一部、と見ることでできる。しかし、経済的な面だけを考えると、少なくとも 10 年程度の短期的な期間では人口が増えた方が嬉しいだろうし、そうすると「子供を二人以上持ちたいという」希望を持つ若者を健全と呼びたくなる気持ちも、分からないではない。

一方、私事で恐縮だが、我が家でも妻の妊娠が判明して数ヶ月。初めての子と言うこともあり、エコー写真を見てニヤニヤしたり、腹を蹴ったとあって喜んだり、早くも親馬鹿な毎日を過ごしている。既に若者と呼べる年齢ではないので、我々も件の発言の対象となるのかどうか不明だが、ともかく今は、まずこの子と無事に対面できるように、という希望だけで精一杯である。

ただ、つい Web の姓名判断サイトをハシゴしてしまうのは、科学者のハシクレとしていかなものか、と思わないでもないが。

( T. N )

## 投稿のしおり

九州大学情報基盤センターでは、利用者の方々との深い交流と有益な情報交換のため、以下の種類の原稿を募集しています。

- 随想
- 計算機を利用した研究・開発の紹介
- アプリケーションの実用例や解説
- プログラミングの実例や解説
- センターに対する質問・要望
- 利用者の声
- 計算機やネットワークに関すること

執筆の際は、後述の《執筆上の注意》を必ずご参照ください。投稿された原稿の掲載については、広報委員会で検討させていただきます。

別刷りは、原稿提出時に希望があれば、50部まで無料で差し上げます。50部以上希望される場合は、原稿提出時にご相談ください。

なお、投稿に関するお問合せは共同利用係(ダイヤルイン092-642-2305)までお願いします。

### 《原稿送付先》

原稿の送付先は、以下のとおりです。

〒812-8581  
福岡市東区箱崎6丁目10番1号  
九州大学 情報基盤センター  
共同利用係 行

### 《メ切》

原稿のメ切は、5・9・1月の15日です。発行は、その2ヶ月後になります。メ切を過ぎた原稿は、その次の号への投稿扱いとなることがあります。

### 《執筆上の注意》

1. 原稿は原則としてワードプロセッサ等の出力結果とします。

用紙サイズはB5のみとし、書式は図1をご覧ください。手書きでも結構ですが、その場合センター規定の原稿用紙を使用してください。用紙は、共同利用係にあります。フロッピーディスクや電子メールでの投稿は別途、共同利用係までご相談ください。

2. ワードプロセッサによる出力は、写真製版とさせていただきますので、投稿原稿の品質にはご注意ください。
3. 手書きの場合は、黒鉛筆、黒ボールペンまたは黒インクのいずれかで書いてください。また、数字、英文字、大(小)文字、上(下)付き文字等混合しやすい文字ははっきりわかりやすく指定してください。
4. 原則として、常用漢字、現代かな使いで統一してください。
5. 第一ページには、必ず題名、著者名、所属および電子メールアドレスを記入してください。記入位置については、図1をご覧ください。

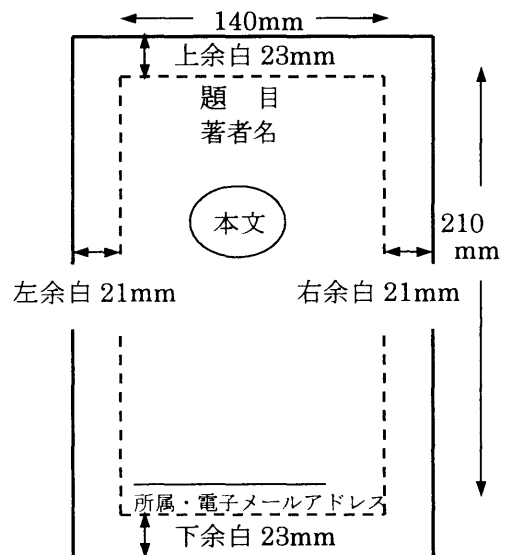


図1：書式設定





## 情報基盤センター連絡先一覧

### ■ WWW, E-mail

情報基盤センター	<a href="http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/">http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/</a>
教育用システム	<a href="http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/ec/">http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/ec/</a> <a href="mailto:uketuke@s.kyushu-u.ac.jp">uketuke@s.kyushu-u.ac.jp</a>
総合情報伝達システム (KITE)	<a href="http://www.nc.kyushu-u.ac.jp/">http://www.nc.kyushu-u.ac.jp/</a> <a href="mailto:n-room@cc.kyushu-u.ac.jp">n-room@cc.kyushu-u.ac.jp</a>
研究用計算機システム	<a href="http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/">http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/scp/</a> <a href="mailto:request@cc.kyushu-u.ac.jp">request@cc.kyushu-u.ac.jp</a>

### ■ 連絡先

係	E-mail	電話番号
庶務係 (代表)	<a href="mailto:syomu@cc.kyushu-u.ac.jp">syomu@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2303
会計係	<a href="mailto:kaikei@cc.kyushu-u.ac.jp">kaikei@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2304
共同利用係	<a href="mailto:kyodo@cc.kyushu-u.ac.jp">kyodo@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2305
ネットワーク運用係	<a href="mailto:netunyo@cc.kyushu-u.ac.jp">netunyo@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2309
ネットワーク管理係	<a href="mailto:netkanri@cc.kyushu-u.ac.jp">netkanri@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2309
マルチメディア教育支援係	<a href="mailto:mediasien@cc.kyushu-u.ac.jp">mediasien@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-3842
マルチメディア機器管理係	<a href="mailto:mediakanri@cc.kyushu-u.ac.jp">mediakanri@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-4249
電子図書館係	<a href="mailto:elib@cc.kyushu-u.ac.jp">elib@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-4291
電子サービス係	//	092-642-4290
システム運用係	<a href="mailto:unyo@cc.kyushu-u.ac.jp">unyo@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2307
システム管理係	<a href="mailto:syskan@cc.kyushu-u.ac.jp">syskan@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2308
研究部	<a href="mailto:kenkyu@cc.kyushu-u.ac.jp">kenkyu@cc.kyushu-u.ac.jp</a>	092-642-2296

## 全国共同利用版 Vol. 6 No. 2 ならびに Vol. 6 No. 3 の紹介

九州大学情報基盤センターでは、本誌の他に全国共同利用施設として運用している研究用計算機システムの利用者向けに全国共同利用版広報誌を発行しています。今回の内容は以下の通りです。

### Vol. 6 No. 2 (2006 年 11 月発行)

- ・ 解説
  - － プログラムライブラリ開発書 肥山詠美子氏の文部科学大臣表彰若手科学者賞および西宮記念賞の受賞
  - － 厳密 4 体理論による量子力学的 4 体系束縛状態のエネルギーと波動関数 (その I)
- ・ 特集
  - － 先駆的科学計算に関するフォーラム 2006 「春の研究奨励キャンペーン」成果報告

### Vol. 6 No. 3 (2007 年 3 月発行)

- ・ 研究開発
  - － 量子化学計算プログラム Gaussian および GAMESS のためのプリ・ポストプロセッサ : Facio
- ・ 解説
  - － 分子動力学パッケージ MASPBYC (Materials Explorer)
  - － 分子動力学法を用いた結晶性材料の粒界構造とエネルギー評価
  - － 分光実験と MD 法による溶液の液体構造とダイナミクス
- ・ 特集
  - － 夏の研究奨励キャンペーン成果報告
  - － 海溝型地震の津波シミュレーション
  - － OpenMP による並列計算とその応用例－多相場を非圧縮性流体と考える数値解法(MICS)－
  - － システム生物学研究のための並列コンピューティングシステムの設計
  - － 分子科学に関連したユーザ会の報告

これらの広報記事は以下のページより閲覧して頂けます。

<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/publish/kohobkno/index.html>

九州大学情報基盤センター広報  
Vol. 6, No. 2-3合併号  
平成19年3月 発行  
編集 九州大学情報基盤センター  
広報委員会  
印刷 アイメディア株式会社